

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	14-112	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The relationship between the density of alcohol outlets and parental supply of alcohol to adolescents. 酒販店の密度と青年に対する親からのアルコール提供の関連</p>		
執筆者		
Rowland B, Toumbourou JW, Satyen L, Livingston M, Williams J.		
掲載誌		
Addict Behav. 2014 Dec;39(12):1898-903.		
キーワード		PMID
アルコール、酒販店の立地密度、青年期、両親の出生地		25150657
要 旨		
目的：		
<p>地域 1 万人あたりの酒販店の立地密度が、青年に対する親からのアルコール提供に影響を及ぼすかを検証した。サブグループ分析として両親の出生地別での検討も実施した。</p>		
方法：		
<p>マルチレベル回帰分析を用いて酒販店の立地密度と青年への両親からのアルコール提供に関連があるかを検討した。</p>		
結果：		
<p>ビクトリア州において、学生対象に実施した調査の結果、青年の 55%が過去 12 ヶ月に飲酒した経験があり、34%が両親から提供されたお酒だと報告された。マルチレベルモデルを用いて検討した結果、酒販店の立地密度のアルコール提供に対する影響は認めなかったが、両親の出生地および酒販店の保有する許可証の種類(量販店・飲食店)によって影響に差が見られた。持ち帰り形の量販店の立地密度増加によるアルコール提供頻度に及ぼす影響は、豪州外で出生した両親をもつ青年と比較して豪州生まれの両親を持つ青年では 2.03 倍増大した。豪州生まれの両親を持つ青年と比較して豪州外で出生した両親をもつ青年では、アルコールをその場で提供する飲食店の単位あたり立地密度が増加するごとにアルコール提供に関するリスクは 1.36 倍増大した。</p>		
結論：		
<p>豪州では酒販店の立地密度が親からのアルコール提供と関連した。特に両親の文化的背景や特定の種類の酒販店の立地密度によって関連に強弱があることが示唆された。</p>		